

2017 年度「研究者の横顔」 藤原 義之先生

1. 研究者になろうとしたきっかけ

私が医者になった 30 年前は、ちょうど「癌は遺伝子の病気である」ということが脚光を浴びていた時代でした。その当時、私の出身教室の先輩中村祐輔博士が東京の癌研究所生化学部部長でいらして、世界に先駆けて家族性大腸腺腫症の原因遺伝子 APC を発見された時期でした。私はそこへ国内留学し研究者としての第一歩を歩み始めました。

2. 助成研究の内容紹介

私の研究は、癌細胞と正常細胞でエネルギー産生経路が異なることを利用した新しい癌の診断治療法を開発することです。ヒトの体内で合成され健康食品にも含まれているアミノレブリン酸を投与することで正常細胞は活性化されるが癌細胞では細胞が不安定になることがわかってきました。これをさらに進めていくことが私の研究の目的です。

3. 2 の将来に繋がる結果予想

目に見えない癌の検出と、体に優しい癌治療法の開発を目指していきます。

4. 全国の RFLJ 関係者に一言

素晴らしい試みでありさらに活動が広がることを願います。今後とも癌研究へのご協力をよろしくお願いいたします。